

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271700084		
法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所しおさい		
所在地	島根県大田市仁摩町仁万843		
自己評価作成日	平成26年1月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327">x.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年2月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、6名の定員の為に少人数で、より個別の対応のしやすい事業所です。特養や認知型のデイサービスが併設しており、事業所間の交流や協力が図れます。また、自然豊かな立地環境から、季節毎の外出や地域のイベントに出掛ける事の多い事業所です。近くに鮮魚を扱う店もあり、刺身なども食卓に並び、ご利用者様に喜んで頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所としての歴史があり、法人施設と共に利用者が自分の思いを大事にしながら生活できるように協力して取り組んでいる。職員はこれまでの利用者の習慣や思いを把握し、利用者が毎月法人施設で行われる法話に参加したり習字を書きに行ったり、毎日仏壇を拝みに行くなどを支援し、「利用者の気に入るように過ごしてもらいたい」「一日1回でも皆で笑えるようにしたい」との思いで利用者を尊重し笑顔で接している。利用者同士が互いに案じあう場面や助け合う場面があり、少人数ならではの運営がされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月の法人内全職員研修で事業所理念や事業計画について研修し、事業所毎に自事業所の年度計画を読み合わせ、実施に向けて話し合いました。また、11月にも事業所内ミーティングで再度事業計画を読み合わせ実施状況を確認しています。	事業所独自の理念、方針をつくり、全職員で年度計画に基づいて実践することに努めている。年度途中でも振り返りを行い確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	主催者からの声掛けもあり、地元の祭りや催し物に積極的に参加しています。また、買い物や食材配達は、地域の店を利用しています。その他、ボランティアの受け入れ、地元保育所の定期訪問を受け入れています。	法人として自治会に加入していて、地域の人に声をかけてもらい祭りなどの地域行事や小学校の運動会への参加、保育園児の定期的な訪問などを通し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行う他、法人をあげての地域研修会で「認知症研修」を行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しています。ご意見をもとに、食事会の回数を増やしたり、積極的に地域のボランティアさんや団体に声かけをしています。	利用者の状況や活動、事業計画などを報告し委員から積極的にサービスへの要望や助言が出されている。新たに地域との関係作りについての助言があり今後取り組みが予定されている。	時にはいろいろな分野の人にも参加してもらい、グループホームとして地域の人との関係が広がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の機会を使って、相談したり助言を求めています。	主に運営推進会議の場で取り組みを伝え、市の事業や研修、介護保険や認知症に関する情報、他の事業所の情報などをもらい協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「スピーチロックゼロ運動」を事業所に掲示し、言葉かけに注意しています。また、ご利用者から居室の施錠の希望が出た際に施錠の考え方を検討しました。しかし、玄関・出入り口の施錠については、高い確率で施錠しています。	利用者が外出願望の強い時は他の部署の職員が協力して対応しているが出入り口は施錠していることが多い。職員は身体拘束、スピーチロックの内容を十分理解し改善策を模索している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月に法人内の全職員研修において研修しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、実施していないため、2月の事業所内ミーティングにて行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月、11月に入退所があり、重要事項説明書等を利用して、ご家族に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を載せている他、法人内に意見箱を設置しています。また、2カ月に1度運営推進会議を開催するほか、2カ月に1度食事会を開催し、ご家族をお招きしてお話を伺います。	運営推進会議や、食事会の開催回数を増やし意見を聞くことに努めている。職員にとっても家族から話を聞くことはよい機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めと職員の異動のあった11月に、職員と一緒に事業計画を読み合わせ、意見を求めました。	職員も年間計画について意見を言い、家族との関係作りや地域の人との関わりなどについて積極的に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	12月に人事考課を実施し、職員個々の状況把握を行いました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の年数や意欲・意向に合うような研修を受講させたほか、法人内研修で希望する研修を挙げてもらい、研修を企画しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学を受け入れ、その際に情報交換を行ったほか、大田市の事業所連絡会の部会への出席や交流会への出席を促しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前にご本人を訪問し、面識を持つたり情報を伺ったりしました。また、入所前に利用されている担当ケアマネや事業所から、情報提供を受ける様にしました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定の連絡の際や、入所時の契約の際に意向を伺いました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所決定の連絡の際や、入所時の契約の際に意向を伺ったり、対応について話し合いました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の特色や目的をご説明し、ご本人のこれまでの生活状況や趣味、意向などを伺ったうえで、どのように過ごして頂くかを一緒に考えるようになっています。出来る事は、他のご利用者や職員と一緒に作業して頂きます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、事業所での様子をご家族に送付しているほか、食事会に招いて日頃の様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際には、ゆっくりと会話を楽しんで頂ける場に配慮しています。また、知人の方が、法人内の別事業所に居られる際には、面会に行き来して交流して頂く様にしています。自宅やその周囲までドライブにも出かけました。	毎日法人施設の仏壇を拝みに行く人を支援したり、施設に入所した人に会いに行ったり、希望があれば自宅に帰るなど支援している。家族には毎月写真を送りつなかりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友好関係のご利用者や、関係の良くないご利用者を把握し、食事の席や余暇時間に座る位置、物事をお願いする際には配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所されたご利用者を、時々、グループホームのご利用者と一緒に面会に行きます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間をみつけて、ご利用者にお話を伺ったり、入所時や面会時、食事会の時に、ご家族にお話を伺ったりしています。	ケアマネージャーから情報を得たり、家族から話を聞き利用者の思いの把握に努めている。思いを伝えられない場合も行動の原因を探り利用者に思いを馳せながら支援することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には担当ケアマネより情報を頂きます。また、ご利用者やご家族にお話を伺ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子観察、健康チェックを行い、ご利用者と個別に話す時間を持っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段からご利用者の様子について職員同士意見交換を行うほか、ご利用者にお話を伺ったり、入所時や面会時、食事会の時に、ご家族にお話を伺ったりして、介護計画に盛り込むようにしています。	日常的に職員間で情報交換を行い利用者、家族、職員の声を反映させたプランを作成している。ケアマネージャーがプランを立てた時に話し合いケア内容を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時の申し送りや連絡ノートなども活用し、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天候やご利用者の希望により、市内の名所、寺社に出向いたり、献立を決めたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーや飲食店を利用してご利用者と一緒に買い物に行ったり外食します。また、ご利用者の希望を聞いて、市内の名所、寺社に向いたりもしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医のご希望を伺い決定します。利便性からかかりつけ医を変更される方が殆どですが、これまでのかかりつけ医を継続される方もあります。定期の往診の他、体調に変化のある場合は、随時相談しご指示を仰ぎます。	利用者、家族の希望を聞きかかりつけ医の継続、かかりつけ医の変更を行っている。毎月協力医の往診があり、相談しながら連携して取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐はしていませんが、常に連絡が取れるようにし、随時相談や助言を受けています。必要を思われる場合は、かかりつけ医に看護職員から連絡し、指示があればご家族と共に受診してもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院の医療相談室や病棟看護師と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護認定の更新の際や入院の際、体調の変化にあわせて、今後の意向を確認したり、特養への入所の希望などを伺い、希望があれば入所申込みの手続きを行っています。	法人全体の看取りのマニュアルがあり、家族も納得して施設への入所申し込みを行い重度化、終末期に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、救急法およびAED操作方法の講習を毎年実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	事業所内で年に2回火災訓練を行っています。法人全体の火災訓練も行い、自治会からの参加もありました。非常災害マニュアルの見直しと地域との協働体制づくりも進めています。	こまめに点検して火災予防に努め、事業所としても独自に避難訓練を行っている。法人の訓練には地域の人も参加し、現在法人として津波を想定したマニュアルの検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室の鍵について、希望により自らが鍵をさされるご利用者もあります。何かを行う際には、お伺いを立て意志を尊重しています。	職員が利用者のことを話す時には特定できないように気をつけている。利用者を尊重した対応やプライドを傷つけない言葉使い、思いや希望に沿った支援をすることに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「スピーチロックゼロ運動」を事業所に掲示し、言葉かけに注意して、ご本人の要望や気持ちを確かめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物の同行、レクリエーションなどご本人に伺いながら、希望を尊重する様に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個室のタンス内に個人の洋服が入れてあり、外出時など好きな服を選んでおられます。個々に、洗面所の鏡を見て整髪される様子がみられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立についてはご利用者の希望を伺います。それぞれの能力に合わせて、一緒に調理や片づけをしています。外食や刺身、惣菜などもメニューに取り入れています。	食材の買出し、調理、片付けなど一緒に行い、食後はお膳に食器を入れる人、重ねて運ぶ人などあり利用者のできることをしてもらっている。希望を聞いて刺身を献立に入れたり外食の機会も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入し把握しています。ご利用者に合わせて、飲みのを工夫したり、小さく刻んだりと個別に対応しています。体調不良時には、別メニューで食べやすい食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて促しや介助を行い、毎食後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用されている方はありますが、日中はトイレにて排泄して頂きます。夜間も基本的にはトイレを使用し排泄されますが、1名夜間の歩行が不安定な方があり、夜間のみおむつ対応しています。	利用者の力を活かしてトイレで排泄できるように支援している。不安がる人にはその人の心情や行動の原因を探り、顔を合わせ、納得してもらってから支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり散歩で運動量を増やすなどして、自然排便に向け取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調により入浴を中止したりしますが、曜日や時間帯については特に希望がなく、定期的に促しています。入浴時間については、ご本人が満足されるよう、ゆっくりと入浴して頂く様にしています。	大体週2回の入浴で、職員はその時その時に声かけを工夫して入浴を誘い支援している。入浴が楽しみなものになるようにゆっくり話を聞き関わっている。	入浴は一日の日課の中で位置づけ、毎日声をかけながら取り組まれることを望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やしたり、夜には眠くなるまでホールでテレビを観て頂くなどし、臥床時間を遅らせるなどしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出る薬についての説明書を綴り、処方時には確認する様にしています。個々の能力に応じて錠剤を粉剤にして頂いたり、内服確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々日記を書いたり、小物作りを職員とされます。特養にある仏壇を毎日拝みに行かれる方もあり、ご希望に沿うように対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週の買い物の際には、希望される方と一緒にいきます。季節に応じて、希望される場所に出掛けたりします。ご家族には、面会と一緒にの外出をお勧めしています。	買い物や外食、地域のカフェ、彼岸市、祭り、神社など、利用者の希望を聞いてできるだけ出かけるように個別に支援している。家族と外出する人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は所持されていませんが、1名所持され、稀に文房具を購入されたりします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、希望されれば自宅に電話してご家族と話されるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に外出時の写真を掲示したり、季節の花を飾ったりしています。	季節の花を飾り、ホールのあちこちにソファを置いて利用者が落ち着いて好みの場所で過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの数か所に椅子やソファを置いて、それぞれが思い思いの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、個室を自由に飾って頂く様にお声掛けをしています。写真を飾られたり、置物を置かれた方もあります。	何でも自由に持ち込んでもらうように話している。時計やクリーム、家族の写真、衣服掛け、毛布などを持ち込んでいる人もあり、利用者の現在の状態に合わせて環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなど、入り口に張り紙をして分かり易いよう工夫しています。ご利用者の動線に物を置かない、床が濡れたままにしないなど、安全な環境に配慮しています。		